

南三陸町 つながる 未来通信 No.2



このニュースレターは、
南三陸町の方々が様々な仮設住宅やまちで取り組まれている
元気の出る活動を紹介し、
これからの暮らしづくり・まちづくりに向けて、
皆さんがこのまちで大切にしていきたいと思っていることを
私たちに発見し、綴りたいと思っています。

発行元：NPO法人コレクティブハウジング社

われわれNPOコレクティブハウジング社（以下、CHC）が様々な方からの紹介で巡り会った皆さんと行っている、暮らしの中の手仕事「コモン・テ・しごと」。主に仮設の集会場でおこなわれています。南三陸の暮らしから生まれた小物づくりをしたり、その傍らで懐かしい食の紹介、体験談、被災前の家のこと、町のことなど風土に根ざした会話も弾んできました。

手仕事に必要な針・糸・はさみ・色とりどりの素敵な布・カッター・ミシン・色紙などは、CHCを結節点に全国の有志から心温まる支援の品が寄せられ、受けとる方たちを思い浮かべながら箱に詰め込み、仮設住宅へ送っています。

集まった布の中には、タンスの肥やしとなっていた思い出の着物や、大事に使っていたお気に入りのスカーフなども。届いた布を囲んで「この色すてきね」「これで何か作ってみたいわ」とにぎやかに会話が広がる南三陸。思い出の布が新しく生まれ変わった姿をみて「やっぱりうれしいね」と笑顔がこぼれる送り手。いろいろなところで笑顔が広がっていきます。

また手仕事のあとにみなさんと一緒にお昼ご飯を作って食べた（コモンミール）ときのこと。郷土の食べ物談義に花が咲き、「たらし焼き」という南三陸のおやつを作ることに。味噌味でおいしいのでみんな大喜び！東京でも作りたいと、熱心に作り方を聞いてしまいました。

みなさんの「手仕事」の作品一つひとつがとてもすばらしく、作り手の方の個性が発揮されています。

南三陸つながる未来通信第2号では、仮設住宅でのみなさんの活動の風景をご紹介します！

平成の森 仮設



仮設の路地に、テーブルとベンチを置いてつくった憩いの場「ばあばどーる」。平成の森には集会所がなかったため、このようにみんなで集まれる場所を自分たちの手で作っていらっしやいました。さすがに冬になると風も強く寒いため、平成の森（公共施設）のミーティングルームを借りて「手仕事」のこれからについて相談をしました。

「ばあばどーる」に集っていらした方を中心に作っているのは、個性あふれる刺子のコースターです。「布の色合わせを考えるだけで楽しい」「時間がなかなかないけど、作り始めると止まらない」という声も。伊里前仮設商店街の「うたちゃんショップ」でも、一部販売をはじめられました。今は、ご家族の若い世代の力を借りながら、パッケージを検討しているところです。2月20日には待望の集会場が完成します。手を動かしながら、おしゃべりの輪が広がるといいですね。



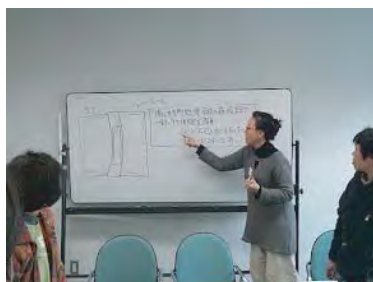
テーブルには
みなさんの力作がズラリ！



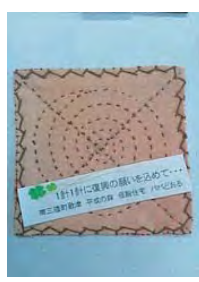
タコの刺し子のコースターを作る方も。



お茶請けでいただいたお漬物。
おいしかったです！



この日は、パッケージの方法について
話し合いました。



メッセージも同封して、帯をつける案が生まれました



紙を使って、コンブクロ作り教室！
この布とこの布を合わせて…



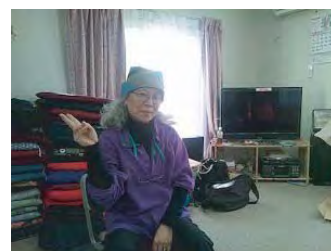
こうやって縫うと…
袋の形になりました！



さっそく布で作ってみました！
みなさん手際がいいですね。



これからのまちづくりについて、
みなさん強い想いをお持ちでした。



コンブクロ帽子？！

中瀬町仮設住宅は、もとの集落の方々が共に暮らしている数少ない団地です。

第1回目の手仕事では、CHCが送り込んだお楽しみ箱を開けて、テーブルに布を広げながら、昔の手仕事の話に花が咲きました。「海円寺には安産を願う人が訪れ、無事生まれたらそのお礼と子どもの無事成長を願ってお寺から借りた人形と、もう1つ新しく作った人形を奉納するんだよ」「誰かが亡くなったら、コンブクロにお米を入れて持って行ったよ」「蟹採りのために布を刺子にしてウミテブクロという手袋を作ったよ」などなど。

そして、みんなで、布を使ってコンブクロづくり。色合わせをしながらてきぱきと布を切り分けられていました。さすがに年季の入った手作業ぶりです。

夜には区長さんや自治会役員の方々と、震災前のまちの鳥瞰写真を見ながら、これから地域で検討しなければならない高台移転についてお話を伺いました。



中瀬町
仮設

波伝谷 仮設



裁縫の得意な方が作られた、
着物生地のリメイク作品！

Aさんご夫妻からお話を伺いました。以前、Aさんのお宅はみんなの集まれるお茶のみの場になっていたそうです。いろりを囲んでまたみんなでおしゃべりができる場所を作りたいとおっしゃっています。現在仮設集会所では、裁縫の技術のある方を中心に手仕事が始まっています。高台移転を進める前に、これからどんな生き方をしていくのか、どんなまちづくりが必要か話したいと切望されているのが印象的でした。



コースターとテーブルセンター。
色の組み合わせもすてきです！

田尻畑 仮設

田尻畑仮設では、仮設の集会所を利用して古着の着物生地を中心に手仕事を進めています。デザインや企画をやってみようかなという人、色合わせが得意な人、古い着物をほどいてコースターや暖簾・テーブルセンターなどを作る人など、それぞれの得意分野がありそうです。それを活かして、連携作業もできそうです。

また、復興事業推進課を招いて高台移転についての説明を受ける場に、わたしたちも同席させていただき勉強しました。皆さんの熱心な質問から学ぶことがたくさんありました。



小さな南三陸、誕生！
これからが楽しみです。



チョコキチョコキチーム作、
色とりどりの切り子コースター！



チクチクチーム作のマフラー。
とってもあたたかかったです！

南三陸町のおとなり、登米市にある南方町仮設住宅。広い集会所をのぞいてみると
いろんなグループが銘々に活動しています。あっちにお邪魔してみたり一緒に何か
やってみたりと、とてもにぎやかです。

江戸の紋切りを見本に、鮮やかな色紙で切り子コースターを作るチョコキチョコキチー
ム。オリジナルのタコの切り子も登場。チクチクチームはボランティアさんへのお
礼に赤いフリース生地でマフラーを作ろう！と計画。CHCも生地を探すお手伝いを
し、すてきなリバーシブルのマフラーが完成しました！

また、南三陸から離れて暮らすことで、わたしたちのことを忘れられてしまうんじ
ゃないか、と不安を感じている方もいらっしゃいました。そこで始まったのが「こ
こに小さな南三陸を作ろう！」という取り組みです。壁に方言や行事を書いた紙を
貼ったり写真を貼ったり。「これから」というコーナーもあって、皆さんの思いが
綴られています。

お昼には、みなさんとお鍋を囲み、昔ながらのおやつ「たらし焼き」を食べながら
おしゃべり。集会所の広い台所で、一緒にご飯を作って食べてもいいねという話も
出ていました。みんなで食べるとおいしいですね。



南方町
仮設

吉野米 仮設



復興茶論の大人たちに見守られて、
子どもたちは「行ってきま〜す！」

もともと集会所のなかったこの地区では、寒くなる前までは仮設テントでみんなが集まれるスペースを作っていらっしゃいました。昼間はおばあちゃんやおじいちゃんたちが、夕方になると学校から帰ってきた子どもたちが集まって、とてもにぎやかでした。11月に集会所ができるというお話でした。

子どもは地域の方々に見守られて安心して遊んでいるように見えました。開かれた場があるというのは、いいですね。



移動図書館の名前は
「たんぼぼ号」！

どんなペイントにしようか
相談中です



仮設 図書館

アリーナの横にある仮設図書館。震災後、角田市から譲り受けた専用バスを使って、はじめての移動図書館もスタートしました。職員の方たちは「みんなが楽しくなるようなバスにしたい！」と、ペイントの計画を少しずつ進めていらっしゃいます。

CHCは、ペンキの調達や絵を書いてくれる人探しなどのお手伝いをできればと思っています。

発行日：2012年2月28日
発行：NPOコレクティブハウジング社
〒101-0054東京都千代田区神田錦町3-21
ちよだプラットフォームスクウェア1175
info@chc.or.jp／電話：03-3315-0255

CHCでは、この活動のために2つの助成金をいただいています。

平成23年度（第2次）独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業
事業名：仮設から始めるコミュニティづくり支援事業

赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」助成事業（第4次中長期活動）
活動名：仮設住宅や被災地域での孤立化を防ぎ、共に日常の暮らしを取り戻すための
手仕事を柱にしたコミュニティの再構築の支援活動